

# 平成25年度

教科・科目名 科学年コース	普通科3年 理系	授業時間数/週	3時間	
授業の目標	科学的な事物・現象に対する探究心を高め、科学の規法的な概念や原理、法則の理解を深める。			
授業内容の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間ごとテーマを決め、それに基づき授業を展開する</li> <li>・各单元ごとに適宜実験・観察等を実施し、創意工夫を図る</li> <li>・定期的に小テストを実施し、学力の定着を図る</li> </ul>			
評価方法について	試験80点 評点20点			
使用テキスト				
教科書	高等学校化学 I 改訂版(啓林館)			
副教材	セミナー化学 I + II			
年間授業計画	<p>前期</p> <p>4月 非金属元素と周期表 周期表と元素の性質</p> <p>5月 水素と希ガス ハロゲンとその化合物</p> <p>6月 酸素・硫黄とその化合物 窒素・リンとその化合物</p> <p>7月 炭素・ケイ素とその化合物</p> <p>9月 アルカリ金属とその化合物</p>	<p>後期</p> <p>9月 2族元素とその化合物</p> <p>10月 アルミニウム・亜鉛などとその化合物</p> <p>遷移元素とその化合物</p> <p>11月 有機化合物の特徴と構造</p> <p>12月 脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族化合物</p> <p>1月 芳香族化合物</p> <p>2月</p> <p>3月</p>		

平成25年度

## 科 年 年間学習計画

学期 月 配当時間	単元 項目 学習内容	学習のねらい ポイント	学習活動 (評価方法)
前期 4月 配当時間 9時間	非金属元素と周期表 周期表と元素の性質	2年次に学習した周期表について、典型元素と遷移元素の違いに触れながら、理解を深めさせる。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (周期表、元素の性質)
5月 配当時間 9時間	水素と希ガス ハロゲンとその化合物	各元素の特徴や性質、製法を学び、身近に利用されている例を挙げ、生活の中の化学に対する理解を深める。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (水素と希ガス、ハロゲンとその化合物)
6月 配当時間 12時間	酸素・硫黄とその化合物 窒素・リンとその化合物	各元素の特徴や性質、製法を学び、身近に利用されている例を挙げ、生活の中の化学に対する理解を深める。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (16属元素とその化合物) (15族元素とその化合物)
7月 配当時間 9時間	炭素・ケイ素とその化合物	各元素の特徴や性質、製法を学び、身近に利用されている例を挙げ、生活の中の化学に対する理解を深める。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (14属元素とその化合物)
9月 配当時間 9時間	アルカリ金属とその化合物 2族元素とその化合物	各元素の特徴や性質、製法を学び、身近に利用されている例を挙げ、生活の中の化学に対する理解を深める。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (アルカリ金属とその化合物) (2族元素とその化合物)

後期 10月 配当時間 時間  12時間	アルミニウム・亜鉛などとその化合物 遷移元素とその化合物	各元素の特徴や性質、製法を学び、身近に利用されている例を挙げ、生活の中の化学に対する理解を深める。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (アルミニウム、亜鉛などとその化合物) (遷移元素とその化合物)
11月 配当時間 時間  12時間	有機化合物の特徴と構造	有機化合物の性質や反応を理解させ、有機化合物の分類と特徴を学ばせる。また、日常生活や社会と関連付けて理解を深めさせる。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (有機化合物の特徴) (有機化合物の構造)
12月 配当時間 時間  9時間	脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族化合物	脂肪族炭化水素の性質や反応を、構造と関連付けて理解させる。 官能基と反応の関係性を理解させる。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (脂肪族炭化水素) (酸素を含む脂肪族化合物)
1月 配当時間 時間  9時間	芳香族化合物	芳香族化合物の性質や反応を、構造と関連付けて理解させる。 官能基と反応の関係性を理解させる。	問題演習に取り組みながら、実践的な力を身に付ける。  小テスト実施 (芳香族化合物)
2月 配当時間 時間			
3月 配当時間 時間			